

あなたも読みください
真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊 1カ月 3400円
日曜版1カ月 800円

手良民報

生活相談はお気軽に
電話 78-0943

赤旗読者に配達

発行

日本共産党・手良支部

五十数名が受診

J A祭に健康チェック

上伊那医療生協手良支部では昨年(2011年)に続き10月27日のJA手良支所祭に営農経済課の部屋の一室で「街角健康チェック」を行いました。

血圧測定、体脂肪・内臓脂肪・体内年齢の判る体組成計(BBC)による測定などが行われ、昨年より多い五十数名のみなさんが気軽に受診しました。



J A祭健康チェック

今年も文化祭・文化芸能発表会

手良地区文化祭は11月3・4日に行われ、昨年と同じ約500点が展示され、約300名の観客がありました。

陶芸・盆栽クラブの出品はありませんでした。一般の方の出品が多く、昨年並みの数は保ちました。作品はバラエティに富

んでいきましたが、今年も賑やかに秋の里山を表現した「手良里山に登る会」のデコレーション、手良歌会の毎年の短歌の色紙、中坪の「あすなろ」の絵手紙、中坪の歩み研究委員会の月刊紙の掲示、野口の城倉幹夫さんの金環食・金星の日面通過の写真、下手良の有賀幸雄さんの地蜂の巣、ハツ手のクリスマスリースなどの労作が目立ちました。

また、11月4日に行われた文化芸能発表会ではこちらで詩吟・民謡クラブの出演はありませんでしたが10演目が上演され、70〜80人が観覧しました。

手良歌会の創作短歌のスライドの上映、中坪の歩み研究委員会の紙芝居「清水庵物語」の上演、日本舞踊、太鼓の演奏などがありました。

三十数名の参加 初の「てらコン」

ステキな出会いの場を提供しようと手良地区活性化促進会議企画委員会が計画した「てらコン」は11月11日の日曜日の昼間、下手良公民館で行われ、手良地区内外から20歳以上の独身の男性18名、女性18名が参加しました。

手良太鼓でオープニング、みんなで楽しくカレーなどを料理して会食し、フリーマーケットをして、その後グループに別れディスプレイ。どんな企画だと参加した



金環食・金星の日面通過

くなるのか、どんなことをしたいかなど話し合い、次回は春にスポーツ、飲み会、山登り、桜をみながら川下りなどの希望が出され、全体としてかなり盛り上がったようでした。

賑やかに

J A手良支所祭

JA上伊那手良支所祭は10月27日、秋晴れの空の下、昨年よりすこし少ない約300名の地域のみなさんが参加し、賑やかに行われました。

この祭は総代や農家組合役員などのみなさんの協力により地域のみなさんの参加を呼びかけて行いますが、同じ地域にいてもなかなか行き会えず久しぶりの出会いの場にもなりました。

今年も豚汁のサービスがあり、お手玉遊び、餅つき大会、福入り餅投げ大会、ふれあい動物コーナーなどもあり、手良小学校児童和太鼓、手良太鼓クラブの演奏で盛り上げました。



J A手良支所祭

11月10日に手良小学校体育館で活性化促進会議、公民館など4つの団体共催による講演会があった。講師は直木賞を受賞したあのサイケデリックな派手な服装で人目を引いた志茂田景樹氏。当日はそれでも地味な服装であつたが、なかなかよべない人で知り合いのつてもあつて呼ばれたようであるが先入観があつて興味本位で話を待った。今全国を読み聞かせのボランティアで歩いているようである。或る機会に、絵本の読み聞かせの必要性を痛感し、始めた話をされた。読み聞かせは心にいいものが残り、明るい心、豊かな心を養うことが出来ること。絵本もたくさん創作しているよつであるがその中から2本を選んで読んでくれた。琴の演奏と奥さんのプロジェクトとともに。絵本の内容もであるが読み聞かせもやさしく力強くイメージをふくらましてくれた。表面だけで人を評価してはいけないこと、小さい時から絵本の読み聞かせの重要性を学んだ。手良の小学校でもボランティアのみなさんが子どもたちへの読み聞かせで頑張っている。(T)

ひろみ通信

大飯原発

なぜ止めない!

関西電力大飯原発は現在も稼働していますが、11月7日、国の原子力規制委員会は、専門家を変えた現地調査の結果を検討する評価会を開きました。

大飯原発の敷地内の破砕帯(岩盤の亀裂)は活断層かどうかの検討の中で、関西電力に対して、委員会による現地の再調査と別な場所でのトレンチ(溝)を掘ることを求めました。

私もこのトレンチをテレビで見ましたが、南アルプスにもある破砕帯と同じ緑色の岩が映っていました。

南アルプスの緑色の岩は、海洋プレートが沈み込んで行く地下50キロほどの深いところでジュラ紀の付加体が高い圧力を受けて変わって出来たものです。

大飯原発の場合、1・2号機と3・4号機の間に問題のF16破砕帯があります。この破砕帯の上に、冷却水を海から送る管があります。地震でこの破砕帯が大きく動けば、原発を冷やす非常用取水路が使えなく

規制委員会のメンバーはこの破砕帯を活断層の可能性が否定できないことでは意見が一致していると報道されています。

日本共産党は、政府に対して危険な大飯原発を直ちに止めるよう求めています。11月にも衆議院解散かという報道もされていますが、原発を止めて、自然エネルギーに転換していくために、も重大な選挙です。

衆議院北陸信越ブロックでは、「ただちに原発を止めて自然エネルギーへの転換を」掲げているのは、日



柳川ひろみ

市議会議員

手良山脈山歩記

野口 山下兼幸

さて次は、梅雨前の五月下旬。峯山線を軽トラで走行すると、「沢山国有林火気取扱注意」の看板が目に入る。そこは手良だ。峯山線終点の260号鉄塔付近に車を止め、松尾峠を目指して歩いた。

この送電線、浜岡原発から送電されていたが今は何処の火力からか？山間を走る送電線の雄大な光景が私は好きだ。ここから尾根道を五つ六つの山を超えて歩く。

まず目に入ったのは西側に松島区有林、そして「北真志野生産森林組合」の各看板。真志野って何処。後日調べたら諏訪市内の区名だ。車の無い頃、徒歩で日々作業に通える距離ではない。山小屋で

寝泊りしたのか？

さて地図通りに歩けども松尾峠に到着しない。もう峠付近に来ている筈だが？ここで更に北進して林の中に迷い込んだらまずい。次回は松尾峠から南進することにして戻る。ポイントには木に吊ってあるベクトルポトルだ。

この頃になると地図の見方(三角点、起伏の状況、尾根が沢かの見分け方、登り勾配が否か等)も少し判って面白味が増してきた。後日松尾峠からベクトルポトルまで歩いた。

更に興味が深まり美篁笠原から風越峠まで歩こうかという話になった。まずは林道の事前調査だ。地図通り、瓢箪堤の所から東進する林道が開設されていた。余談であるが笠原は堤の多いことに驚いた。十個以上はある。

生活雑記 104 秋の夜長

小松利江

あの暑い暑い夏の終わりに苦労して蒔いた大根の匂が畑を賑わすようになった。

昨日も今日も大根、大根とあますことなく、煮て、炒めて、漬けて、干してと、本当に嬉しい有り難い野菜の王様に感謝。今年も大根のカレー、大根ご飯、おでん、酢の物、きんぴら、ステーキ、

さあ当日は？「中坪区有林徳利洞(スグリザワ)」の標柱がある。ここまでは平坦な快適な林道だ。ここからが歩き難い、迷い易い道だ。(つづく)



中坪区有林 徳利洞(スグリザワ)の尾根不動峰まで掘割の道

今年最後の野草教室

手良公民館の今年最後の「野草教室」は11月9日に行われ17名が参加して、横川溪谷、小野神社、勝弦峠、しだれ栗森林公園を周りました。

横川溪谷は一度紅葉の真っ盛りでした。しだれ栗森林公園では1時間ばかり相変わらず元気

第11回吟行

手良公民館と「井上井月を偲ぶ句会」による、散策をして俳句を創る「吟行」は10月28日の日曜の午後、笠原の「六道の堤」で選者・助言者を春日愚良子先生にお願いして行い八名が参加しました。

小雨があり、秋草の咲く堤の端を水鳥を見ながら散策して俳句を創りました。天気心配でしたので、会場を郷之坪集会所に移して俳句をまとめ、選句



横川溪谷

をして先生の評を聞きました。その後先生を囲んで宴となり俳句や井月の話、四方山話に花が咲きました。



六道の堤で吟行

素晴らしい写真 有賀修司さん

10月12日から11月9日まで手良公民館の談話室に下野の有賀修司さん(67歳)の雄大な素晴らしい写真が展示され観客の心をひきつけました。



談話室有賀写真

心を込めた手作り(1) 小林貴子

豊食の時代と言われる今、食育の大切さを思います。食育とは「心を込めた手作り」一番大切にしたいです。食育とは「心を込めた手作り」一番大切にしたいです。食育とは「心を込めた手作り」一番大切にしたいです。

俳句 ウォーキング 高橋 忠

ウォーキング速くなりたりあかのま

秋の夜自販機の下蟻動く
梅雨空を床屋の看板回転す
路面には白線引かれ夏来る



「絵手紙教室」を 始めました

連絡先 高橋 (七八〇九四三)



小松栄子

暗くなるまで友達と遊び帰宅すると、工場の電気がついていて、頑張っている両親の姿を見て、宿題もせずに、カレーを作り仕事の終わるのを待ちました。その時、とても喜ばれ、寝られ、私の心は嬉しさでいっぱいになった事を覚えています。

母は、仕事に忙しい日々でも料理が好きで、母の作る食事にはいつも心の温もりを感じた子供の頃、母の手料理と同じに作れる様になりたいと台所へ立つ私でもありました。

今、私は、学校給食を作り続けて25年になりました。私の手作り子供達へ心を込めた給食をと思った時、食事は命のつながりであることを感じました。

野菜、米を育てる人の命、その方達の命の手により育った野菜、米の命、そして全て食べずに種を取り命をつなぐ事。(つづく)

(おながい)

身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思えます。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。

七八〇九四三 高橋